

自ら外国語を読もうとする児童を育てる

小学校外国語科授業

—読むことの段階的な指導と教材の工夫を通して—

教育実践高度化専攻 教科指導重点コース 言語・社会科学系（英語）

小田 貴也

実習校の児童は、外国語科の授業において、指導者が外国語の語句や表現の読み方や意味を尋ねたときに、「分からない」と言って読もうとしなかった。これは、語句や表現を声に出して読んだり、意味を推測したりすることに対する自信がなかったことが要因の一つであると考えた。そこで、本研究主題「自ら外国語を読もうとする児童を育てる小学校外国語科授業」を設定し、実践に取り組んだ。

主題の姿に迫るため、本研究では、次の2点に着目して実践を行った。

(1) 先行研究をもとに、「気づく段階」、「結びつける段階」、「分かる段階」を設定し、段階を踏んで読むことの指導を行うことで、児童の音と文字の関係に対する認識を高められるようにする。

(2) 音と文字の関係に対する認識を高めることで、語句や表現を音読することができるという自信をもち、身近にある外国語を読もうとする態度を育成する。

実践を通して、実践や指導法について課題は残ったものの、適切な読むことの段階的な指導の在り方により主題に迫る児童の姿が多く見られた。